

<全体分析>

試験時間 2科目 120分

解答形式

記述, 論述, 描図

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

大問数は前年と変わらず4問であった。問題ページ数は15ページ→17ページ、小問数は15問→15問とほとんど変わらない。論述問題の数は8問→6問、総字数は360字→245字と減少したが、計算が必要な問題が増加し、全体の分量は前年とそれほど変わらない。また、全体の難易度は前年と同程度であった。

出題の特徴や昨年との変更点

標準的な知識問題に加えて、考察問題も出題される。

国公立大の二次試験としては標準的な難易度の問題が多い。

昨年との変更点は特になし。

その他ピックアップ

大問II 問1(3)について、問題として不適切であると判断された為、全員を正解とした旨の発表があった。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	記述 論述 選択	体液・腎臓 「体液水分量の バランス」	生物基礎	問4 解答例以外にもさまざまな別解が想定される。	標準
II	記述 論述 描図	酵素反応速度 遺伝 「グリホサート」	生物	実験1では2つの基質のうちPEPが、実験2ではS3Pが十分量与えられている。 問1(3) グリホサートありの場合は、どのS3P濃度でも反応速度は1/2になる。 問1(4) グリホサートありでも V_{max} は変化せず、横軸の値が100の時、縦軸の値が90となる。	やや難
III	記述 論述 選択	生体膜・遺伝子 光合成 「膜脂質の不飽和化」	生物	問4 オ 低温処理前のそれぞれの光合成活性の値が与えられていないため、判断できない。	標準
IV	記述 論述 選択 計算	海洋生態系 物質収支 「食物連鎖」	生物 生物基礎	問3(3) 表1の上段と下段で単位が異なることに注意する。温帯外洋域の各栄養段階の生態効率率は1/10であり、沿岸域では1.5/10となる。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・教科書レベルの基本事項をきちんと整理しておく。
- ・20~80字程度で要点をまとめて論述する練習をしておく必要がある。
- ・考察問題が増加傾向にあるので、数年分の過去問の研究をしよう。

